

1. 活動日時

令和4年8月9日（火）8:30-17:30

2. 活動場所

福井県南越前町二ツ屋地区、大桐地区

3. 被害状況

両地区ともに道路修復のため通行止めになっており、医療支援は外部支援者が地元保健師から情報を聞き、優先度の高い人から順に入っている。二ツ屋地区は本日午前中に開通、大桐地区は午後の一部開通したが、重機や大型ダンプの往来により移動には時間を要する状況。

4. 活動の実際

8:00 今庄中学校ボランティアセンターで医療活動班 23 名集合。

8:30 担当地区、グルーピングについて隊員とミーティング。

9:00 道路が寸断している大桐地区へのヘリ移動が決定。メンバーへブリーフィング。

9:13 ヘリチーム（大桐地区）と徒歩チーム（二ツ屋地区）にメンバー編成を行う。

10:00 活動開始、酒井隊員とヘリチームは緊急ヘリポートへ、徒歩チームは4チームが車で二ツ屋地区へ移動。

10:15 寸断道路前で駐車し、徒歩で二ツ屋地域へ移動。

11:00 大桐地区（対象者：4名）、二ツ屋地区（対象者：8名）の健康チェック開始。

13:15 ボランティアセンターに戻り聞き取り調査をまとめ、保健師・地元診療所医師へ報告。

14:00 午後活動班4名追加。チーム再編成し5チームで対象者6名宅へ訪問。酒井、花房、作川は新設予定のボランティアセンターと今庄診療所（地元医療施設）へ訪問し情報共有。

16:30 ボランティアセンターに戻り聞き取り調査をまとめ保健師へ報告。

17:30 デブリーフィングを行い活動終了。

<大桐地区>

対象者4名のうち1名は避難済み、1名は不在。残り2名に健康障害はないが、泥の匂いで食欲低下あり。泥水により生活物資が全て流されており、衣服、保静用品など全てが不足。特に片付け作業による外傷に対し、消毒や絆創膏などもない状態。早急に必要な物資をリストアップし、県危機管理課へ報告し同日中にヘリで届けるように調整。

<二ツ屋地区>

対象者14名中2名が通常血圧より30mmHg高かった。断水地域であり、飲料水と食料（おにぎり）は届けられているが、生活用水がなく、トイレは外の側溝で行っていたり、ポータブルトイレでおこなったりしている。お風呂は入れていない。飲料水として配布される水を使うように勧めるが、勿体無い気持ちもありなかなか使えない状態。午後から3～4軒に1基程度の割合で仮設トイレ（洋式）が設置された。

## 5. 健康上の問題・課題

対象地域の断水は続いており、生活用水（トイレ、洗濯、風呂など）の不足によるストレスが高いため、早急なライフラインの復旧とともに、仮設トイレの設置、保清面のケアが必要。特にトイレ使用後の手洗いなどができていないため、感染予防のためにも消毒薬の設置、使用に対する指導が必要。また、長期化による体力消耗に伴い、睡眠不足や水分摂取不良などで高血圧や脱水症のリスクが高くなることが予測されるため、適宜巡回時に声かけや体調チェックをおこなっていく必要あり。さらに地域によっては、受援することが恥だと思っていることもあり、特に体調不良など訴えない方もおられるため、客観的に判断しながら必要な対処を行う必要がある。

## 6. 所感

飲料水は確保できているが、断水による生活用水不足に対するストレスは、訪問したほとんどの方が訴えられており、かなりのストレス要因となっている。また、被災を経験していない者にとっては、被災時に何から手をつけていいかも理解できない状況にある。支援者は、聞き取りの際困っていることなどを聞くが、それが解決しない限り被災者のためにはなっていない。むしろ何回も同じことを聞かれ何も状況が変わらないのであれば余計にストレスを与えることになる。支援者に対しては何が必要なのかを聞くのではなく、何が必要なのかをイメージし、「これが必要ですよ」など被災者より先に理解し共感するような姿勢が求められる。支援に対しては、地域全体の被害状況をアセスメントし、支援の格差が出ないような倫理調整が必要であると考えます。



写真1：徒歩で巡回する様子



写真2：体調聞き取りの様子